

## 令和8年度 研究概要

所属名 特別支援教育センター		研究会議名 個別最適な学び（特別支援教育センター）研究会議
年次	1—1	担当責任者（ 重田 剛志 ） 担当指導主事（ 雨宮 薫 黒江 千尋 伊原 悠美子 ）
研究員	<u>内島 裕（ 川崎市立小学校教諭 ）</u> <u>田村 一真（ 川崎市立中学校教諭 ）</u> <u>佐川 澄夏（ 川崎市立特別支援学校 ）</u>	
研究主題	特別支援学級・特別支援学校の児童生徒が目標に迫るための自己調整の研究 ～教師の伴走支援の在り方を求めて～	
資質・能力 育成を目指す	教師の伴走支援によって、児童生徒が自己調整しながら学習目標を達成する力	
研究内容	<p>令和3年1月の中央教育審議会答申では、これからの教師の姿を「子供の主体的な学びを支援する伴走者」と明記した。「第3次川崎市教育振興基本計画かわさき教育プラン」においても、「児童生徒が主体的に考えて学びを自走していくように、教員がファシリテーター役を担う学びへの取組を進めていきます」と明記された。本研究会議では、特別支援学級・特別支援学校の各教科等の指導において、児童生徒が学びを自走していくような授業の実現には、多くの課題があるということが話題として挙げられた。そこで本研究では、児童生徒が各教科等の指導の目標に自己調整しながら自走していくための、教師の伴走支援の在り方を探っていくこととした。</p> <p>文部科学省は令和7年12月に提示した『個に応じた学習過程の充実について』において、次期学習指導要領の総則に盛り込む要素（案）に、「児童生徒による自己調整」と「教師による指導・学習環境構築」を挙げている。この中で、自己調整とは、「よりよく学習するための方略」「見通しを持つ（学習前）・方略を工夫しながら学習を進める（学習中）・学習の成果を外化し振り返って次の学習に繋げる（学習後）」といったプロセス」と説明している。</p> <p>本研究では、自己調整の視点として、特別支援教育センターの一昨年度と昨年度の自己調整の研究の成果を生かし、新たな「自己調整ワークシート」を作成して授業の中で活用していく。さらに、今年度は、伴走支援の在り方という視点から、教師の関わり方や学習環境の構築に焦点を当てて、授業改善を図っていく。方針としては、前述の「教師による指導・学習環境構築」の中で述べられている「学習材の準備」「学習課題や学習活動の選択」の内容を参考にする。</p> <p>検証では、「児童生徒による自己調整」「教師による指導・学習環境構築」の結果、児童生徒が教科の目標を達成できたかどうかを見ていく。そのために、児童生徒と教師の発言の変容（インタビューを含む）、「自己調整ワークシート」等の記述、事前事後の児童生徒と教師へのアンケートの3点を分析していく。</p>	